

連載

はままつ文化財の散歩道

第4話 まちの中にも文化財！

文 化財というと、浜名湖北岸の寺社や、北遠の山里に伝わる芸能などを思い浮かべますが、実は中心市街地も文化財の宝庫として知られています。

浜松市では、地域から推薦された文化財を認定する「浜松地域遺産認定制度」があり、二〇二一年には中区肴町にある商店の建物や道具類が市の認定文化財に加わりました。

その中の一つが、かつお節や乾物を取り扱う「松作商店」に残されている金庫です。大正初期の製作で、戦火もくぐり抜けた年代物です。この他の認定文化財には「不二丘料理店の三味線」、「伊東商店の鯉節削り機」、「天ぶらの枳形の半纏と井」、「弁いちの婚礼献立」などがあり、変わったところでは、「山口屋寿司店のかまど炊き」なんてものもあります(通常非公開の認定文化財が多いのでご注意ください)。

浜松中心街には、かつて多くの劇場や寄席がありました。その一つが大河ドラマ「いだてん」にも登場した肴町の勝鬨亭です。明治から大正にかけて寄席として営業し、若き日の古今亭志ん生や柳家金語楼などの落語家たちが出入りした人気スポット。現在は「かちどきビリヤード」にその名をしのぶことができます。

この他、肴町や千歳町などには芸妓が所属する芸妓置屋があったほか、千歳町には中央検番があり、芸妓の派遣や稽古などを統括し、今とは違う盛り場にぎわいをみせていました。身近なまちにも歴史があり、多くの資源が埋もれています。読者の皆さん、身の回りを見渡してみてください。気付かないところに文化財があるかもしれません！

(文：浜松市文化財課)

浜松市博物館巡回展「まちの盛り場」を舞阪郷土資料館(西区舞阪町舞阪)で展示します。(10月3日(日)～11月28日(日))

市HP ▶ まちなかの歴史

まちなかの歴史の調査の情報はホームページにも掲載しています



大正10年 肴町付近の地図
右下に勝鬨亭が見える



松作商店に残されている金庫